

令和 2 年度教育課程研究集会

＜小学校・図画工作＞

奈良県教育委員会事務局 学校教育課 義務教育係 湊 丈司

内容及び目的

■内容

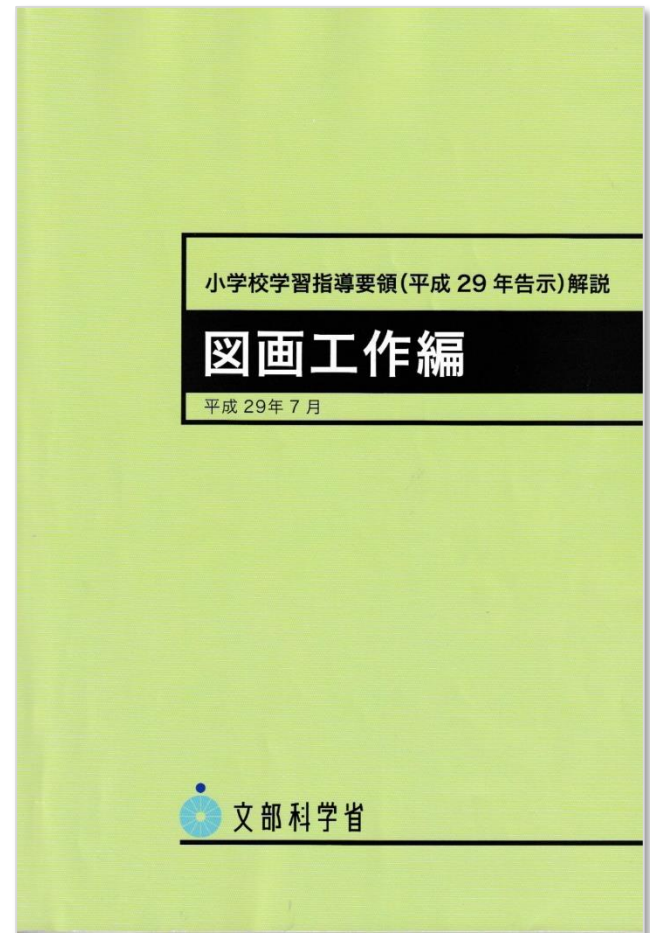
**新学習指導要領における学習評価
の概要と具体例について**

■目的

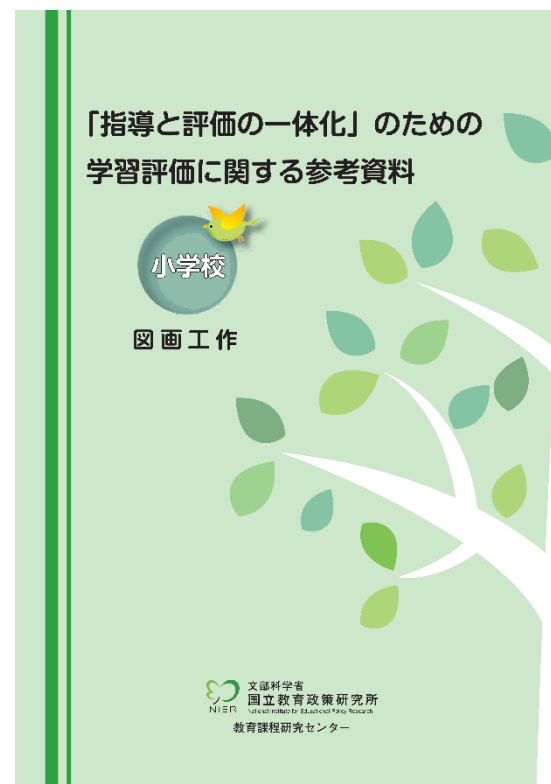
**学習評価における基本的な考えに
ついての確認をする。**

資料について

小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 図画工作編



資料について



□ **学習評価の在り方ハンドブック小・中学校編**

□ **「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料**

資料について

- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（**答申**）」
平成28年12月21日 中央教育審議会
- 「児童生徒の学習評価の在り方について（**報告**）」
平成31年1月21日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会
- 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（**通知**）」
平成31年3月29日 初等中等教育局長通知

学習評価の改善の基本的な方向性と考え方

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

※ 学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものです。
「児童生徒にどういった力が身についたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められます。

(「学習評価の在り方ハンドブック 小・中学校編」文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター)

育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する子供の視点に立ち目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理

学びに向かう力, 人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」
を総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力, 判断力, 表現力等

指導事項と評価の観点との関連

内容等	指導事項	評価の観点
「A表現」(1) 発想や構想に関する項目	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」	「思考・判断・表現」
「A表現」(2) 技能に関する項目	ア 造形遊びをする活動を通して育成する「技能」 イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する「技能」	「知識・技能」 (技能)
「B鑑賞」(1) 鑑賞に関する項目	ア 鑑賞する活動を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」	「思考・判断・表現」
〔共通事項〕(1)	ア 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「知識」	「知識・技能」 (知識)
	イ 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して育成する「思考力、判断力、表現力等」	「思考・判断・表現」

※ 「学びに向かう力、人間性等」

「A表現」「B鑑賞」及び〔共通事項〕を指導する中で、一体的、総合的に育てていく。

内容のまとめり

1 小学校図画工作科の「内容のまとめり」

小学校図画工作科における「内容のまとめり」は、以下のようになっている。

〔第1学年及び第2学年〕

造形遊び・・・「A表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
絵や立体、工作・・・「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
鑑賞・・・「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

〔第3学年及び第4学年〕

造形遊び・・・「A表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
絵や立体、工作・・・「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
鑑賞・・・「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

〔第5学年及び第6学年〕

造形遊び・・・「A表現」(1)ア、(2)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ
絵や立体、工作・・・「A表現」(1)イ、(2)イ、〔共通事項〕(1)ア、イ
鑑賞・・・「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

造形遊び	「A表現」(1)ア、(2)ア	共通事項 (1) ア、イ
絵や立体、工作	「A表現」(1)イ、(2)イ	
鑑賞	「B鑑賞」(1)ア	

「内容のまとめりと評価規準」を 作成する際の基本的な手順

学習指導要領に示された教科及び学年の内容を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解したうえで

① 図画工作科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

② 図画工作科における【観点ごとのポイント】を踏まえ「内容のまとめりと評価規準」を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」

【観点ごとのポイント】 「知識・技能」 （知識）

＜造形遊び「A表現」(1)ア＞ ＜絵や立体、工作に表す活動「A表現」(1)イ＞

■ 「知識のポイント」

- ・〔共通事項〕(1)アから作成する。
- ・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している。」とする。

＜鑑賞する活動「B鑑賞」(1)ア＞

■ 「知識のポイント」

- ・鑑賞する活動については「知識・技能」のうち「知識」を評価する。〔共通事項〕(1)アから作成する。
- ・文末は、学習の状況の評価することを踏まえて「～している。」とする。

「内容のまとめりごとの評価規準」

【観点ごとのポイント】 「知識・技能」 （技能）

＜造形遊び「A表現」(2)ア＞

■ 「技能のポイント」

- ・ 「技能」は「A表現」(2)アから作成する。
- ・ 文頭の「造形遊びをする活動を通して、」は内容のまとめりを示すものなので削除する。
- ・ 文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している。」とする。

＜絵や立体，工作に表す活動「A表現」(2)イ＞

■ 「技能のポイント」

- ・ 「技能」は「A表現」(2)イから作成する。
- ・ 文頭の「絵や立体，工作に表す活動を通して、」は内容のまとめりを示すものなので削除する。
- ・ 文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している。」とする。

※鑑賞する活動「B鑑賞」では技能は「評価」の観点としない。

「内容のまとめりごとの評価規準」

【観点ごとのポイント】 「思考・判断・表現」

＜造形遊び「A表現」(1)ア＞

■ 「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」は「A表現」(1)ア、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)アを示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とする。
- ・「A表現」(1)アの文頭の「造形遊びをする活動を通して、」は、内容のまとめりを示すものなので削除する。
- ・「A表現」(1)アの「造形的な活動を思い付くことや、」を「造形的な活動を思い付き、」とする。
- ・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している。」とする。

＜絵や立体、工作に表す活動「A表現」(1)イ＞

■ 「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」は「A表現」(1)イ、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A表現」(1)イを示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とする。
- ・「A表現」(1)イの文頭の「絵や立体、工作に表す活動を通して、」は、内容のまとめりを示すものなので削除する。
- ・「A表現」(1)イの「表したいことを見付け、」を「表したいことを見付け、」とする。
- ・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している。」とする。

＜鑑賞する活動「B鑑賞」(1)ア＞

■ 「思考・判断・表現」のポイント

- ・「思考・判断・表現」は「B鑑賞」(1)ア、〔共通事項〕(1)イから作成する。〔共通事項〕(1)イに続けて「A鑑賞」(1)アを示し、「自分のイメージをもつ。」を「自分のイメージをもちながら、」とする。
- ・「B鑑賞」(1)アの文頭の「～を鑑賞する活動を通して、」は、内容のまとめりを示すものなので削除する。
- ・文末は、学習の状況を評価することを踏まえて「～している。」とする。

「内容のまとめりごとの評価規準」

【観点ごとのポイント】 「主体的に学習に取り組む態度」

<造形遊び「A表現」(1)ア> <絵や立体、工作に表す活動「A表現」(1)イ>

■ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。
- ・ 「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「表現する学習活動」とする。

<鑑賞する活動「B鑑賞」(1)ア>

■ 「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」は当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。
- ・ 「表現したり鑑賞したりする学習活動」を「鑑賞する学習活動」とする。

「内容のまとめりごとの評価規準」 (例)

<例 第3学年及び第4学年の「絵や立体, 工作」>

学習指導要領の「2内容」(上段)及び「内容のまとめりごとの評価規準」(例)(下段)

「知識及び技能」	「思考力, 判断力, 表現力等」	「学びに向かう力, 人間性等」
<p>〔共通事項〕</p> <p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。</p> <p>「A表現」</p> <p>(2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。</p>	<p>「A表現」</p> <p>(1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けることや、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えること。</p> <p>〔共通事項〕</p> <p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。</p>	<p>※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年の目標(3)を参考にする。</p>

「知識・技能」	「思考・判断・表現」	「主体的に学習に取り組む態度」
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。 材料や用具を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<p>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、表したいことや用途などを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい進んで表現する学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>※学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。</p>

指導と評価の一体化を図る

学習評価の在り方

評価の基本的な方向性

||

児童の学習改善・教師の指導改善

適切な「題材の評価規準」
の設定と効果的な活用

題材の評価規準の作成のポイント

■ 「知識・技能」 （知識）

- 全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。

内容の取扱い2(3)

〔共通事項〕のアの指導に当たっては、次の事項に配慮し、必要に応じて、その後の学年で繰り返し取り上げること。

- ア 第1学年及び第2学年においては、いろいろな形や色、触った感じなどを捉えること。
- イ 第3学年及び第4学年においては、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを捉えること。
- ウ 第5学年及び第6学年においては、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えること。

- 全ての題材において、「自分の感覚や行為を通して」については、題材に即して具体的に示すことが考えられる。

題材の評価規準の作成のポイント

■ 「知識・技能」 （技能）

- 全ての題材において、全学年の「材料や用具」、中学年、高学年の「前学年までの材料や用具」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」を参考にして、題材に即して具体的に示す。

内容の取扱い2(6)

材料や用具については、次のとおり取り扱うこととし、必要に応じて、当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で繰り返し取り上げたりすること。

- ア 第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いること。
- イ 第3学年及び第4学年においては、木切れ、板材、釘、水彩絵の具、小刀、使いやすいのこぎり、金づちなどを用いること。
- ウ 第5学年及び第6学年においては、針金、糸のこぎりなどを用いること。

題材の評価規準の作成のポイント

■「思考・判断・表現」

- 全ての題材において、低学年の「形や色など」、中学年の「形や色などの感じ」、高学年の「形や色などの造形的な特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(3)「〔共通事項〕のアの指導」を参考にして、題材に即して具体的に示すことが考えられる。
- 造形遊びをする活動における、低学年の「身近な自然物や人工の材料の形や色など」、中学年の「身近な材料や場所など」、高学年の「材料や場所、空間などの特徴」については、指導計画の作成と内容の取扱い2(6)「材料や用具」などを参考にして、題材に即して具体的に示す。
- 絵や立体、工作に表す活動における、低学年の「感じたこと、想像したこと」、中学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと」、高学年の「感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいこと」については、題材に即して選択し、さらに具体的に示す。
- 鑑賞する活動における、低学年の「自分たちの作品や身近な材料など」、中学年の「自分たちの作品や身近な美術作品、製作の過程など」、高学年の「自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形など」は、題材に即して選択する。さらに具体的に示すことも考えられる。

題材の評価規準の作成のポイント

■ 「主体的に学習に取り組む態度」

- 題材に即して「表現する学習活動」や「鑑賞する学習活動」を具体的に示す。

設定例

< 第1学年及び第2学年の「造形遊び」の設定例 >

つくりだす喜びを味わい楽しく紙で造形遊びをする学習活動に取り組もうとしている。

< 第3学年及び第4学年の「絵や立体，工作」の設定例 >

つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表す学習活動に取り組もうとしている。

< 第5学年及び第6学年の「鑑賞」の題材尾評価規準の設定例 >

つくりだす喜びを味わい主体的に我が国の親しみのある美術作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。

学習評価の進め方（例）

① 年間の指導と評価の計画を確認する



② 題材の目標を作成する



③ 題材の評価規準を作成する



④ 「指導と評価の計画」を作成する



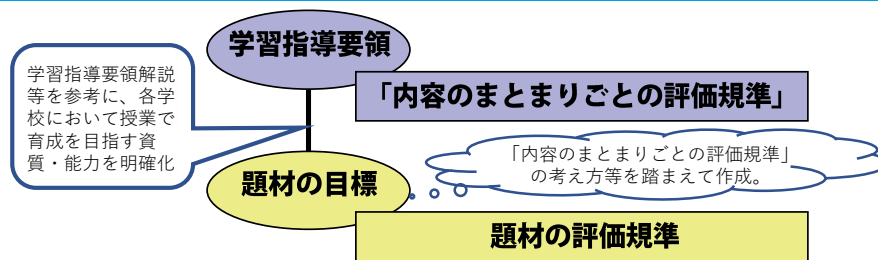
⑤ 授業を行う



⑥ 観点ごとに総括する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童の実態、これまでの学習状況等を踏まえて作成する。

題材の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



- ①、②、③を踏まえて、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価規準を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

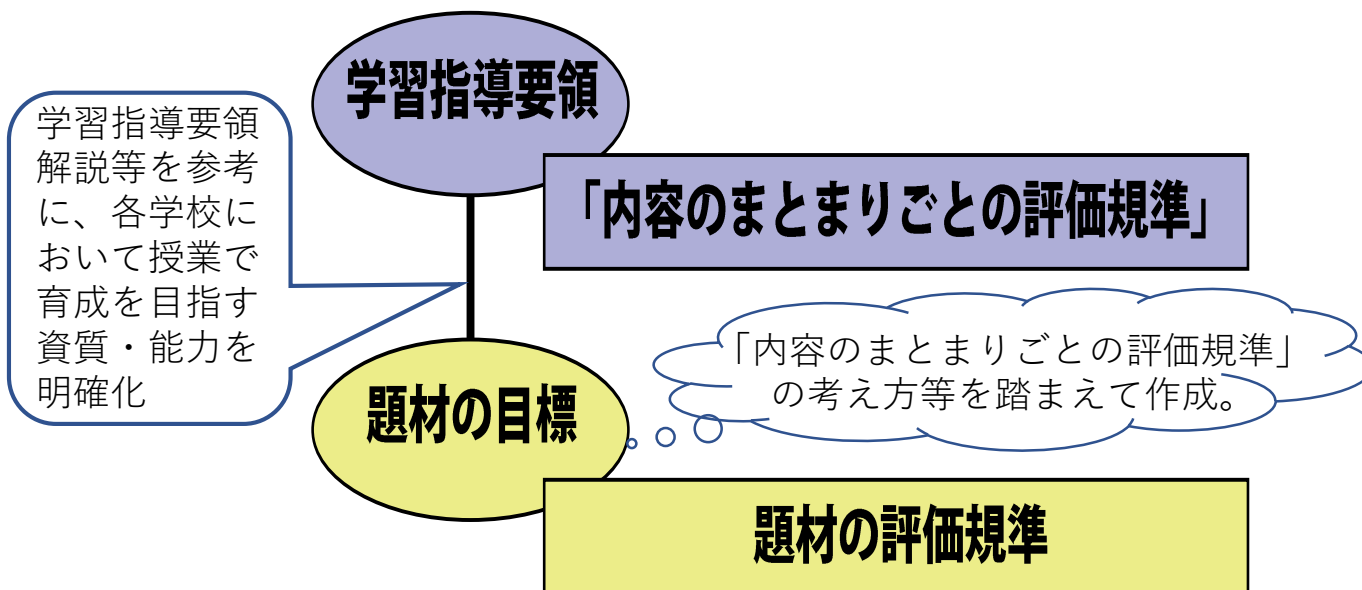
- ④に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A,B,C）を行う。

学習評価の進め方（例）

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、これまでの学習状況等を踏まえて作成する。

題材の目標及び評価規準の関係性について（イメージ図）



題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

1 題材の目標

- (1) ・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる感じが分かる。
 - ・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。
- (2) ・木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考える。
 - ・自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
 - ・形や色などの組合せによる感じを基に、自分のイメージをもつ。
- (3) ・進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・自分の感覚や行為を通して、形や色などの組合せによる<u>感じが分かっている</u>。・木やのこぎりを適切に扱うとともに、前学年までの木や接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	<ul style="list-style-type: none">・形や色などの組合せによる<u>感じを基に、自分のイメージをもちながら、木を切ったり組み合わせたりして感じたことや想像したことから、表したいことを見付け、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている</u>。・形や色などの組合せによる<u>感じを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている</u>。	<p>つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり組み合わせたりして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に<u>取り組もうとしている</u>。</p>

〈目標と評価規準〉

・ 文末の違い

・ 共通事項の示し方

・ 学年目標の表記

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

時間	ねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等				備考	
		知	技	思			態
		知識	技能	発想や 構想	鑑賞		
1	・のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。					1, 2時間目は記録に残す評価はしないが、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて5時間目に「技能」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。	
2	・のこぎりを適切に扱う。		○				
3	・切った木(木片)を並べたり組み合わせたりしながら、表したいことを見つけ、どのように表すかについて考える。			○		3時間目は記録に残す評価はしないが、「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の学習状況を把握し、指導に生かす。それを踏まえて4時間目に「思考・判断・表現(発想や構想)」の視点で児童の活動の姿などを捉え、記録に残す。	
4			◎ 観察 対話 作品				
5	・さらに木を切って組み合わせるなどしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。	◎ 観察 対話 作品	◎ 観察 対話 作品			5時間目は「知識」、「技能」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。	
6	・自分たちの作品を見て、感じ取ったり考えたりしたことを友人と話し合いながら、自分の見方や感じ方を広げる。			◎ 観察 対話 作品カード	◎ 観察 対話 作品 作品カード	6時間目は「思考・判断・表現(鑑賞)」の視点で児童の学習状況を把握し、記録に残す。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、活動全体を通して把握し、最後に記録に残す。	

〈計画的な評価〉

○・・・題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎・・・題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

時間	ねらい・学習活動	評価	
		評価の観点 評価方法等	評価の実際
1	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎりの扱い方を知り、木をいろいろな長さや形に切る。 ・のこぎりを適切に扱う。 	技 ○	<ul style="list-style-type: none"> ・「技能」の視点で、木を切る様子を観察するなどして児童の学習状況を把握し、指導に生かした。 
2			

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

作品， 作品カード



『大かいだんのひみつきち』
大かいだんをぐねぐねにして
二かいに行ったりてんぼう台
に行ったりできるようにしま
した。木をおもしろい形にな
るように切りました。

階段をつくろうと木片の向きや大きさを考えていた。階段全体が緩やかな螺旋状になるように木片の組合せを工夫して接着していた。一番上の段は横に向いていて、一步を踏みだすと展望台に着くようになっていっていると話していた。

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

本題材：「技能」の評価に重点＝「技能」を働かせる場面が多い

- ・鑑賞における「思考力、判断力、表現力等」を評価
- ・主に技能を働かせる場面で「知識」を評価
- ・主体的に学習に取り組んでいるか、全体を通して評価

題材の評価規準の作成

**「指導と評価の計画」の作成
(評価時期や評価方法を配慮)**

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

■ 「技能」：本題材において重点をおく評価の観点

- ・ 「おおむね満足できる」状況
木や木片、のこぎりなどの材料や用具を適切に扱い、前年度までの木や接着剤についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせて木を切ったり、木片を並べたりしながら、表し方を工夫して表している姿
- ・ 主に観察と作品から把握

■ 「知識」

- ・ 「おおむね満足できる」状況
木をのこぎりで切ったり、それらに触れて組み合わせたりする行為やそのときに得られる感覚を通して、形や色などの組合せによる感じなどが分かり、表すことにつなげている姿
- ・ 主に観察や児童との対話から把握

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

■「思考・判断・表現（発想や構想）」

- ・「おおむね満足できる」状況
木を切ったり組み合わせたりしながら、感じたり想像したりして表したいことを見付けている姿
- ・主に観察や対話，作品から把握

■「思考・判断・表現（鑑賞）」

- ・「おおむね満足できる」状況
木片の形や色の組合せによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている姿
- ・主に観察や対話、作品カードから把握した。

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

■「主体的に学習に取り組む態度」

・「おおむね満足できる」状況

つくりだす喜びを味わい進んで木を切ったり木片を組み合わせた
りして立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとし
ている姿

・発想や構想をすること、技能を働かせること、鑑賞することなど に進んで取り組もうとしているかについて、活動全体（観察や対 話、作品、作品カードなど）を通して把握

※のこぎりなどの扱いに不安を感じ、主体的に学習に取り組むことが
できないことも考えられることから、そのような児童を題材の始め
の段階において把握し、適切な指導を行うことで「主体的に学習に
取り組む態度」に影響が出ないよう配慮した。

題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

■児童の学習状況を把握し指導に生かす評価（○）

■題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を記録に残す評価（◎）

観点別学習状況の評価

題材全体を通して、観察の記録と作品、感想、児童との対話などを参考に行う。

- ・ 1、2時間目に「技能」を働かせる活動場面がある。中にはのこぎりの扱い方に慣れずなかなか木が思い通りに切れない児童がいる。そこで、材料や用具を適切に扱えているかを評価し必要に応じて指導を行った。そのことによって、活動の後半では、児童が自分の思いで活動を進め、技能を働かせて工夫して表す姿につながっていった。
- ・ このことを踏まえて「技能」については5時間目に記録に残す評価を行った。評価の総括は、題材の評価規準に照らして、主に、指導と評価の計画で明示した全員の学習状況を記録に残した評価を基に行う。

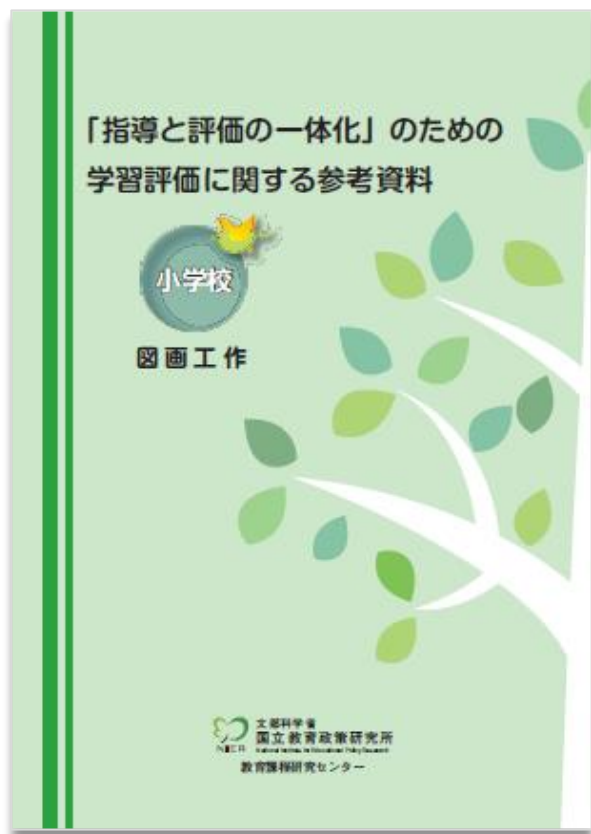
題材ごとの評価について

事例1：第3学年〈のこぎりザクザク生まれる形〉

本事例における観点別学習状況の評価の総括の例

氏名	観点		記録に残す評価	総括	メモ
〇〇 〇〇	知 技	知識	B	A	
		技能	A		
	思	発想や構想	B	B	
		鑑賞	B		
	態		B	B	
	△△ △△	知 技	知識	A	
技能			A		
思		発想や構想	A	A	
		鑑賞	B		
態			A	A	
□□ □□		知 技	知識	B	B
	技能		B		
	思	発想や構想	C	B	
		鑑賞	A		
	態		B	B	

参考事例



事例1 指導と評価の計画から評価の総括まで
「のこぎりザクザク生まれる形」(第3学年)

事例2 「思考・判断・表現」の評価
「ひらいたはこから」(第2学年)

事例3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価
「花に心をこめて」(第4学年)

事例4 造形遊びをする活動の評価,
「思考・判断・表現」の評価, 評価方法の工夫
「中庭再発見プロジェクト」(第6学年)

令和 2 年度教育課程研究集会

<小学校・図画工作>

奈良県教育委員会事務局 学校教育課 義務教育係 湊 丈司